

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 こもれび)

事業所番号	0691200042		
法人名	株式会社ユニバーサル山形		
事業所名	グループホームつばさ栄町		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字横道13-2		
自己評価作成日	令和2年 1月 27日	開設年月日	平成25年 3月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域に根ざしたグループホームとして、地域の方々との交流や地域資源を活用した取り組みを心がけています。寒河江市のお祭りでは地域の子供会の神輿や「臥龍太鼓」という伝統ある神輿や屋台が訪れて下さり、利用者様の毎年の楽しみの一つとなっています。地域にあるグループホームとして地域の方々と共に暮らせるように今後も努めて参ります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オールインワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 2年 2月 21日	評価結果決定日	令和 2年 3月 3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目となり利用者の介護度が高くなってきているが、職員は認知症ケアの基本を理解し、理念に基づいて利用者の尊厳を守りながら穏やかな生活ができるよう、個別ケアを重視した支援を行っている。また日頃のケアについて気付いたことなどを随時職員間で話しあい、認知症ケアの質の向上に向けてチームとして取り組んでいる。子ども神輿とのふれあいや中学生の職場体験等地域との交流にも努めている。また、市介護事業所連絡会を通して行政や他介護事業所とのネットワークも進められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で事業所理念を唱和する事で、理念を再認識しながら実践に繋げる事が出来ている。	事業所理念を見えやすいところに掲示するとともに毎日の朝礼で唱和している。またユニットごと目標を立て、職員が「笑顔」で、利用者の「笑顔」を引き出すことを大切にし、利用者が穏やかに過ごせるような個別ケアに努め、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に所属し、地域の年間行事等を通じて地域社会に参加している。施設周辺の散歩時や日々の買い物時に交流を図っている。	町内会に加入し、市のお祭りでは子ども神輿が来訪し、東屋を活用しながら地域住民と交流を楽しんでいる。また踊りや古新聞寄付などのボランティア、近隣の理美容室の利用、スーパーでの買い物、中学生職場体験の受け入れ等地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人々に対する理解や支援方法などについて、地域に対する発信する事は例年に比べると減ってきている。広報誌の発行やブログ更新だけでなく、事業所としての活動をアピールする機会を検討していく必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では状況の報告のみでなく「日常生活支援の取組み」として日々のケアの様子を報告し、頂いたご意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は町内会長、民生委員、市職員、家族代表が参加し2か月に1回開催している。会議では事業所の現状、活動状況、ヒヤリハット事例及びその取組み等を報告し、委員から意見や情報提供がなされ、ケアの改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターとも連絡を取り合い、事業所の実情やケアサービスの内容を伝え、アドバイスを頂いたりしている。	管理者は市介護事業所連絡会代表を務め、日頃から市介護担当者及び地域包括支援センターと密に連絡を取り合い、情報交換しながら協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>定例のユニット会議で「身体拘束をしないケアの実践」について話合っている。職員一人一人が「身体拘束をしないケア」や「玄関に鍵を掛けない工夫」について考える取り組みを更に深めていきたい。</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針を作成し研修を行っている。また身体拘束適正化委員会としてケア検討委員会を立ち上げ、3か月ごとに開催し日頃のケアにおける身体拘束防止について検討している。さらにユニット会議で話し合いをしながら職員の理解を深め、身体拘束しない実践に努めている。今後は適正化委員会を運営推進会議においてを実施していくことを検討している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法についてだけでなく、日ごろのケアや利用者との関わりで虐待に該当するような事がないかを再認識するためにも研修参加や勉強会の開催に努めていく必要がある。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業所や成年後見制度についても研修参加や勉強会の開催に努めていく必要がある。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>主に管理者・役職者が契約に関する説明を行っている。その都度、不安な点や疑問点を尋ねながら理解と納得を図っている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族等から寄せられた意見や要望に対して、検討・協議を行い運営に反映させている。利用者や家族等は勿論、運営推進会議でそれをどのように反映させているかを情報提供をしている。</p>	<p>意見箱を設置したり、面会時等に家族からの意見・要望を聞く努力をしている。これまでも共用室と居室との温度差や爪切りの頻度などの意見が出され、会議で検討して対応策を実践し、運営推進会議等で報告している。利用者の状況等については毎月のおたよりで報告し、意見を頂く機会にもしている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者からの職員一人一人に対しての職員個々の面談の機会が少なかった。しかしながら、代表者が職員一人一人と面談を行った。日々の業務や定例の会議でも意見や提案を得て運営に反映させるよう努めている。</p>	/		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、事業所管理者、役職者による職員各々との面談や職員の評価を通じて職員個々の努力、実績、勤務状況を把握して左記の内容に沿えるように努めている。職員による自己評価、それを基にした人事考課など実施すれば更なるステップアップが期待できると感じる。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、管理者や職員に対して法人内外の研修参加や資格取得に対して積極的に行けるように配慮している。職員に「初任者研修」の受講や「実務者研修」受講を働きかけている。</p>	<p>内部研修としてユニット会議を活用しながら身体拘束防止などの学習会を年4回行っている。外部研修では職員の経験に合わせながら「初任者研修」、「実践者研修」、「モチベーション向上研修」などに派遣し、ユニット会議で研修報告を行っている。また、新人にはOJTを実施している。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会・グループホーム協会加盟の他、寒河江市の介護保険関連事業所連絡会にも参加している。市内の介護事業所との連絡や連携を図りながらネットワークづくりや相互訪問等の活動を通じサービスの質の向上を図っている。</p>	<p>県グループホーム連絡協議会・グループホーム協会に加盟し会議や研修を通してネットワークを築き新たな情報などを日頃の業務に活かしている。同一法人4施設の会議が毎月開催され、細かな情報交換が行われている。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用を開始する段階で、ご本人の話に耳を傾け、話しやすい雰囲気づくりをしている。関係者からの情報を得てより良い関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族から困っている事、不安な事、要望にしっかりと耳を傾けて安心して頂けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人の現状を把握したうえで看護師や関連事業所の作業療法士を交えて協議し、今必要な支援がスムーズに行えるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事に着目し日常生活の中で作業と一緒に行う事でより良い関係性を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子を手紙や電話で報告し情報を共有している。また、受診や外出、買い物等、家族の出来るところで協力して頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるよう環境づくりに努めている。高齢になり馴染みの場所との関係性が薄れてきている方もいるが、その人の「思い出」を大切に会話の中で支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人その人の性格や相性を考慮し、食席を決めている。その時の状況に応じてスタッフが間に入るなどして利用者同士が関わり合えるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じてサービス利用時の情報提供や相談に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から意向の把握に努め、希望に添えるように支援している。意思疎通の困難な方についても本人の思いを大切にしている。	入所時に基本情報シートで利用者の状況や思いを把握するとともに、日頃の会話、表情から今できること、したいことを把握し、さらに面会時に家族からの聞き取った内容を記録して職員間で共有しながら意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人にお伺いしながら情報収集にあたっている。これまで利用していた事業所等からも情報を得ながら、これまで受けていたサービスと同じような形で支援が受けられるように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努めている。それぞれの状態に合わせ、小さな変化や気付いたこと等職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当者がモニタリングを行いそれに基づいて毎月のユニット会議にて職員間で協議している。計画作成担当者は本人・家族の要望を聞きながら協議内容を含めた現状に即した介護計画書を作成している。	月1回のモニタリングと半年ごとのアセスメントに基づきユニット会議で協議し、家族の要望を取り入れながら本人や家族の言葉で表現し、希望にそった具体的なプランを作成している。プランの見直しは介護保険認定期間としているが、変化があれば随時見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個人記録に記入し申し送りや連絡ノートにて情報を共有している。ケアの実践、結果、気づき、工夫など職員からの情報を基に介護計画の見直しをしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に「時間」「場所」を考慮しながら参加できる場合には参加できるように調整している。「踊りの会」や「日舞披露」の慰問があり楽しみにされている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診の際は、情報シートを用いて本人の心身の状況等を文書にて報告している。受診の対応が困難な方や家族の希望で事業所の協力医療機関の定期往診を受けている方についても結果を家族に報告し情報共有している。	かかりつけ医は本人・家族の希望を基本としている。受診支援は家族支援を原則とするが、職員が支援する場合もある。受診の際は心身の状況を記載した「情報提供シート」を持参している。通院困難になった場合は、本人・家族と相談し往診可能な医療機関に変更し、安心して医療が受けられるように支援している。受診結果は毎月のおたよりで報告し家族との情報共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>心身の状態変化や気づきを事業所看護師・訪問看護師に伝え相談している。24時間体制の連携を図っており、急変などが生じた時には適宜相談し指示を仰ぎ早めに対応できるように努めている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には、入院病院の関係者等と情報交換や相談を行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所で出来る事・出来ない事を説明し本人・家族の意思を尊重して対応している。事業所としてこれまで看取りの事例がなく、看取り期の対応については支援体制の整備を進めていく必要がある。</p>	<p>重度化した場合の指針、看取りに関する指針を策定し、契約時から事業所でできることできないことを説明している。これまで看取りの事例はないが、状況の変化に応じて家族、医療機関と話しあい、緊急対応について情報交換しながら、できるだけ施設で暮らせるように取り組んでいる。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>「救急対応」「初期対応」の訓練の実施が不定期となっている。新しい入職した職員を中心に実際「いざ」という時の対応に不安を感じているものもある。定期的な勉強会や講習会をしていきたい。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災想定避難訓練については、年2回の訓練を通じて火災時に備えている。水害想定訓練については文書やフローチャート形式のものにとどまっておらず、訓練の必要性を感じている。地域との協力体制の構築はまだまだだと感じる。</p>	<p>火災想定訓練は年2回行い、消防署と消防設備事業者等に1回ずつ参加していただいている。前回の目標達成計画に掲げた水害対策については、ハザードマップの確認と、運営推進会議で検討して避難所の情報提供や意見をいただいている。水や食料の備蓄の他、市内介護事業所間の協力体制や同法人4施設間の協力体制についても検討している。</p>		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し関わるよう努めている。	理念である「自尊心を持って自立した生活が送れる」ことを意識し、声掛けやトイレ誘導時のプライバシー確保等に留意している。不適切な言葉かけ等については職員間で注意しあったり、会議で話題として話しあい、一人ひとりの人格を尊重したケアの実践に努めている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人が思いや希望を伝えられるよう言葉かけ、話し方を工夫している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたい思いがあるが、職員のペースに合わせてしまっている事は否めない。業務内容や職員の体制を見直し希望に添えるように取り組みを行っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	中央洗面台や手鏡などを見ながら身だしなみを整えて頂いている。自己決定が可能な方にはその人らしい服装を着用して頂いている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達サービスを利用しており、食事作りの機会は少なくなった。、テーブル拭きや食器拭きを行って頂いている。食材が固めであったり利用者様の好みに応えられない事がある。	副食は配達サービス利用し、ごはんみそ汁は施設内で調理している。できる方からは配膳や下膳、食器拭きなどを手伝っていただいている。なた巻や干柿作り、行事食として、ひな祭り食や芋煮会など、季節に応じ「作って食べる楽しみ」の機会を創出している。プランターで利用者が栽培したミントマットやバジルなども食べて楽しんだりしている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、形態・量・盛り付けを工夫している。嚥下機能の低下した方には刻みやミキサーでの対応を行い、水分にはトロミを使用して自分で食事をして頂けるように付き添いし見守りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて歯磨き誘導している。自力で行う事が困難な方に対しては介助し口腔内の清潔保持に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表を用いてトイレでの排泄を支援している。下衣の上げ下げが困難な方には付き添いし衛生面に配慮している。	排泄チェック表を活用しながら排泄パターンを把握し、必要な方には二人介助するなどできるだけトイレで排泄することを支援している。適時の誘導でリハビリパンツから綿パンツになった事例もある。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や水分補給を促し出来るだけ自然排便を心がけている。便の様子や便通状況を把握し、自然排便が難しい方には主治医に相談し便秘薬で調整している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた入浴支援をしている。職員の人数により利用者の希望にそえないこともあるが、不安なく安全に入浴できるよう環境を整え入浴を楽しんで頂いている。	個浴と機械浴があり、身体状況や体調に合わせた入浴支援を行っている。入浴拒否的な利用者には声かけや曜日・時間の変更など様々な工夫で誘導し、週2回の入浴を確保している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の掃除・整理整頓・敷布交換を定期的に行い清潔を心がけている。居室内の温度・湿度を確認し照明も明るすぎず安眠できるように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について受診記録・連絡ノートに記載し周知している。内服時には、日付・名前を確認し更にチェック表を用いて再チェックしている。症状の変化を見逃さず看護師、主治医へ相談している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし出来る事を支援している。モップ掛けや食器拭き、洗濯たたみ、新聞紙たたみ等日常生活の仕事を行う事で張り合いとなっている。また、塗り絵や貼り絵は「楽しみごと」になっているようで完成した作品を掲示したりしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が高齢で自ら「外出したい」という希望は少なくなってきたが、ドライブにお誘いし季節感を感じて貰ったりしている。元気な方とスーパーでの買い物やお茶飲みに出かけている。定期受診の帰りに外食したり自宅だまごして帰るなど、家族にも協力して頂いている。	職員は外出で利用者の笑顔を引き出すことを大事にし、花見、お雛様見学などのドライブ等を計画し、季節を感じてもらっている。また、近隣の理美容室やスーパーに出かけたり、東屋での休憩、テラスでのお茶のみ、プランターの手入れなど、多様な外出支援を行っている。家族からも受診時に自宅に立ち寄りたり、すし屋で食事するなどの協力を得ている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「預り金」という形で事業所で金銭管理をしている。欲しい物や必要な物があれば一緒に買い物に出かけている。出かける事が困難な方に対しては職員が要望をお伺いして買い物をしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現有能力に応じて携帯電話で家族や友人に電話をされている方もいる。家族への電話を希望される方に対しては要望に応じて取り次いでいる。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は快適に過ごせるように配慮している。季節感を感じて貰えるように装飾を工夫し利用者との貼り絵の作業を行っている。	リビングや廊下には行事の写真、塗り絵・はり絵等の利用者の作品などが飾られ、家族面会時の会話のきっかけとなっている。温度・湿度管理も適時にチェックして管理し、快適に暮らせるように工夫している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配席の変更は難しく固定化している。お茶の時間やレクリエーション時に配席を工夫している。隣ユニットへ遊びに行き、気の合った方との交流を楽しんでいる方もいる。			

自 外 己 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使い慣れた物を家族と相談し持参して貰っている。使い慣れた物をベッド周りに置いたり、テレビ台の上にお気に入りのものを飾ったり壁に家族との写真を貼ったり工夫している。</p>	<p>本人の馴染みの物を持ってきたり、家族との写真を飾ったり、好きな観葉植物を置いたりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。テレビも設置され、楽しむことができる。部屋ごとに加湿器を設置して、温度湿度管理に努めている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部の分かりづらいた所には貼り紙をしたり、目印を付けるなど工夫している。安全に動けるように動線の環境を整え居室のベッド、テレビの配置など個々に合わせている。</p>	/	/	